

平成 21 年度 第2回 One Book One OSAKA 事業運営委員会記録

1. 日 時 : 平成 22 年 3 月 30 日 13 時 30 分～15 時
2. 場 所 : 大阪市立中央図書館 5 階 中会議室
3. 出席者 : 別紙のとおり
4. 会議内容

議事

(1)「大阪市 One Book One OSAKA 事業」について

■事業経過について 別紙「平成 21 年度これまでの経過」参照

■世代間交流事業について 別紙「高齢者向き絵本講座・世代間交流事業」参照

(読書支援活動ボランティアより)

- ・ 校区単位の老人憩いの家で実施、場所により反応はさまざま。『でんしゃでいこうでんしゃでかえろう』という絵本を読みながら雪の場で「雪山讃歌」「ゆきやこんこん」を歌ったり、講談社から出ている昔の絵本を持っていったりするなど高齢者にも馴染みのあるものを取り入れるなど工夫をして、好評のうちに終了。
- ・ 区の老人福祉センターで高齢者向き絵本講座「童心に戻って絵本を楽しもう！」を開催、入門講座 70 名、実践講座 14 名程度の参加があった。今後、子育て支援施設等の子ども向き行事に絵本の読みきかせなどで参加してみたいとの希望も出ている。
- ・ 老人憩いの家で実施、雨天ながらも5～6人の高齢者、いきいき活動ボランティアさんや、区社協の方々に 20 名程度の集まりとなる。大型絵本は見やすいので高齢者に向いていると思った。

(2)「One Book-大阪市の 1 冊の絵本-」の候補について

■ 得票状況報告 配布資料参照

全体 8466 票、うち 1907 票が絵本以外(ほとんどゾロリシリーズ)。

絵本の合計は 6559 票。締め切り後に投票箱設置施設より送付されてきたものも多数あり、3 月 29 日までの到着分をカウントした。

■ 学校での取り組みについて

- ・ 聖賢小学校では幾度も読書推進に関わる同様の取り組みを行っているため、児童が食傷気味の感もあるかと思い、学校独自の取り組みと「One Book」の実施時期をずらすなどの工夫をした。
- ・ 終業式の際、読書感想文表彰式を行った後、校長からの冬休みの宿題ということで投票を促した。学年によっては回収枚数が少ないこともある。低中学年は回収率良し。
- ・ One Book One OSAKA の投票と同じような形式を、かつて読書週間に取り組んだことがあり、その時は書き方の指導も行った。
- ・ 絵本とそうでないもの、幼年童話などの区別が子どもには難しい。ただ、好きな本を選ぶことには慣れている。自然なかたちで普段より読みきかせをしてもらっているので投票用紙が書けない子はいなかった。
- ・ 教育委員会事務局指導部では、主にこの事業の学校に対する広報部分で、図書館に協力し

ている。校長会や活性化事業講座、ボランティアさんの講座等で協力依頼を行った。

■ 「子ども運営委員会」での意見報告

- ・ シリーズの合計で1番と単独で1番を選ぶ方法も良い。1冊で得票数の多い単独絵本を評価するとともに、シリーズならば特定タイトル以外も幅広く読んでもらえるところがよい。
- ・ 時期や期間については、夏休み前は周知が行き届かない、7月から2月末というのは長いのでは？ もう少し短く期間を区切ったらよいのでは？
- ・ 選ばれた本のイラストを募集して展示するイベントをしたらよい。
- ・ 投票用紙について、男女でわけたらよい、年齢や学年等を書けばよい。

■ 「One Book」等について **→『はらぺこあおむし』に決定**

- ・ 子ども運営委員の意見を重視したい。シリーズものも、これからたくさん読んでもらえるよう紹介する意味で入れるのもよい。また、イラスト展等、子どもの豊富な発想を取り入れるべきだ。
- ・ シリーズ、単独それぞれでランキングするのがよい。しかし、One Bookは単独1位の「はらぺこあおむし」にするべきでは？
- ・ シリーズであっても全ての絵本が良いとは限らない。シリーズの中の1冊でも「1冊」として捉えてカウントするのが公平だと思う。
- ・ One Book One OSAKA という事業である以上、単独絵本の1位を今年のOne Bookに決定するべきだ。シリーズの絵本を投票するときも、中でも「この1冊！」というものを代表として挙げて欲しい。
- ・ One Bookの関連イベントとして、作者を招聘するならば、シリーズで1位の「ぐりとぐら」の作者の方が日本人だし、呼びやすいそうではある。
- ・ シリーズのなかのどれが好き？というシリーズ部門も欲しい。
- ・ ランキングをみると作者が日本人の絵本がほとんど。この「はらぺこあおむし」はシリーズものではないし、海外の絵本で翻訳ものなのに、大健闘しているなあと思う。
- ・ 「はらぺこあおむし」は、小型本や大型本、POP絵本などいろんな形状で出版されている。多様性が魅力か？ さまざまな場所で楽しめるのが強い。絵の魅力、言葉の魅力、各方面の知恵がいっぱい詰まっている絵本である。
- ・ 「はらぺこあおむし」はお楽しみ会などのイベントに取り入れると参加率が高い。赤ちゃんから大人まで幅広い人気がある。
- ・ 今後、色々なジャンルでランキングをしたらよいと思う。
- ・ 大人が子どもに良かれと思って行うことについて、子どもたちは本当に好きかな、本当に楽しいかな？と思うことがある。今後も子ども運営委員さんには、大人の前でも自分たちの意見をたくさん発言して欲しい。
- ・ 選ぶ過程で、いろんな絵本があることがわかる。子どもたちが自分で見て、絵本の良さを人に知らせることがテーマだと思う。絵本の紹介のひとつの手立てであると思う。その部分をフォローできる結果報告として欲しい。この事業を通じて小学校にも、もっともっと絵本等が広がればよいなあと思う。
- ・ 来年度もまた同じ本がランキングされたらどうするのか。どの本が1位かということよりも、その途中経過が大事。
- ・ この事業について、広報がまだまだ足りない。絵本に注目してもらうためには、外に向けてもっと発信するべきだ。

- ・「One Book」だから1冊に絞って発表するべきかと思うが、別の機会にもっと広い視点で、どの本も紹介できるようにしたら良いと思う。
- (3) 今後の事業予定について
- ・「One Book」の教育長への報告:4月2日(金) メンバー:副委員長、子ども運営委員、事務局
 - ・「One Book One OSAKA2010 発表会」:4月23日(金) 中央図書館にて市長が発表
市長による読みきかせもしてほしい。
 - ・企画PR部会の開催:4月23日(金) 13時~14時

(4) 平成22年度のOne Bookの投票について

【投票期間・投票用紙・広報】

- ・絵本展はOne Bookの投票を促すのに効果的な場。全区の「絵本展開催一覧表」を作成し、絵本展を投票に先立ち行うのも一手。
- ・夏休み前に配布すると良い面も。学校活性化事業を夏休みより実施しているが、昨夏は、そこで子どもたちにも書いてもらった。開始時期に小学校で一斉に配布するなら夏休みを利用することができる。
- ・夏は読書感想文コンクールの応募校も多く、楽しみにしている子どももいるし保護者の関心も高い。そのため呼びかけを行えば投票用紙の回収率はよいように思う。幹事校長会、区の校長会など校長に対しての広報さえしっかり行っていれば、学校からの配布物が多い時期でも投票用紙が紛れることは無いと思う。しっかり子どもにも広報してから配布すれば、子どもは書きたければ書いてくるだろう。知らない間に紛れて書けなかった子を減らしたい。授業で書くのはもれなく書くひとつの手段。あるいは、秋の読書週間を利用するのも良いだろう。夏休み前に広報をしっかりとってから配ってほしい。
- ・学校で配布に適した時期をアンケートをとってみるのはどうか？
- ・ブックスタート事業、世代間交流事業、高齢者福祉施設での絵本講座等、各方面、各館でそれぞれ活動しているボランティアに協力を仰ぎ、それぞれの場でちらしを配布し、投票をお願いしてもらえればよい。
- ・学校だけでなく、もう少し自由な発想で大人も巻き込めるように展開していくべきだ。
- ・小学校を中心におはなし会に行っているが、どの程度ボランティアがこの事業をPRしてよいか不明であった。次年度からは小学校でもPRしていきたい。

■(事務局より)

- ・たくさんの意見をいただき、子ども運営委員のみなさんも堂々と発言されて、めでたくOne Bookが内定した。この事業は過程を重視している事業である。どのように実施していくか、皆さんのご意見をもとに積み上げてきている。
- ・One Bookに何が選ばれたかの結果ではなく、選ぶ過程で世代間交流や親子の触れあいが出るのがねらい。この事業推進に関わっておられる方の広がりを全国にPRしたい。4月23日に市長から発表を行っていただくが、できれば読みきかせをしてほしい。これをメディアに取り上げてもらい、市内すみずみの地域のみなさんにこの取り組みを知ってもらいたい。